

令和7年度第1回ふくしま広域こころのケアねっと全体会
実施報告

■開催日時：2025年8月22日（金）12時30分～16時00分

■開催場所：CREVA おおくま（大熊町産業交流施設）会議室1A1B
（福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116-5）

■開催方法：対面開催

■参加者数：参加団体18団体・組織 計43名

■開催内容：

（1）第1部 ～物語から学ぼう～

タイトル「つながり・地域・支援・一緒に生きる」

（紹介者）認定NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
／相馬広域こころのケアセンターなごみ

（2）第2部 ～子どもたちの未来を考えるワークショップから学ぼう～

タイトル「安心して子どもを育てるための地域の支えと見守り」

（紹介者）CAPいわき（福島県CAPグループ連絡会）

（1）第1部 ～物語から学ぼう～「つながり・地域・支援・一緒に生きる」

被災者が置かれている状況と必要な支援と支援の方法について、なごみの支援の記録誌「10年の記録なごみのあしあと2023」より、親子の物語（Fさん）をご紹介頂いた。

物語の朗読音声とFさんへのインタビュー動画を上映し、その後、参加者は会場をA～Fの6グループに分かれてグループワークを実施。事例に紐づいた3つの問いをもとに議論を深め、各グループから発表を行った。

6グループの発表から、災害による親子のストレスとして「ひとり親家庭での相談の難しさ」「支援とのつながりの欠如による孤立」が共通して挙げられた。

なごみの支援では、継続的に寄り添う関わりが信頼を生み、SOSの発信や気づきにつながったことが評価された。結果を急がず、本人のペースを尊重する姿勢も効果的だと複数のグループで共通した意見として挙げた。また、支援は短期的な対応ではなく、長期的・多面的な関わりが必要であり、支援者同士の連携によるチーム支援の重要性が共有された。人とのつながりによる自己認知の促進が、社会生活する上での基盤になるとの意見も上がった。



(2) 第2部 ～子どもたちの未来を考えるワークショップから学ぼう～

「安心して子どもを育てるための地域の支えと見守り」

CAPの基本理念である「安心・自信・自由」の三本柱を中心に、講義および2人1組によるワークショップを通じて、子どもが暴力から身を守る力を育むために、大人が果たすべき役割について学習した。

ワークショップでは、家庭・学校・地域において子どもが受ける暴力の種類や、どのような行為が暴力に該当するかを具体的に学ぶとともに、子どもとの関わり方や日常生活における支援のあり方について意見交換を行った。参加者同士が経験を共有することで、理解を深める機会となった。

終了後には、参加者に認定証とオレンジリボンバッジを贈呈した。これにより、地域における子どもを育て、見守る体制づくりの一助となった。



■ アンケート結果（一部抜粋）

◎第1部について、以下のような回答があった。

- ・様々な職の方と意見交換ができ、参考になった。
- ・社会で見えにくく、入りにくい課題に触れられた。1人の問題ではなく、社会、福島の問題であることを確認したことと、取り組む意味や必要を置けたこと。
- ・支援の中で大切なことを学べた。まずは、ストレスの原因でわかったいることを共有することが大切だと思った。
- ・事例を通して、支援が必要な方の状況や支援のあり方、支援がもたらす効果などを考え知ることができた。

◎「全体会に参加し、必要だと感じたこと」について、以下のような回答があった。

- ・支援が必要な人がまだ多く、多様なケースがあること。
- ・継続した支援、他団体との連携、情報共有
- ・人への関心をもつこと。聴く。様子をしっかり見る。
- ・支援についての意識のあり方
- ・多重なつながりのネットワーク